

「次代を担う支援者養成研修（令和7年度）」実施報告 [（詳細はこちら）](#)

8月9日から10月18日にかけて「次代を担う支援者養成研修」を開催し、27名の方が受講されました。

本研修実施にあたって

子ども・若者の支援にかかわることを目指す参加者の皆様方が、困難を抱える子ども・若者への支援に関する理解を深めるとともに当事者性を高めて、将来の支援者として、気づき・つながり・寄り添い・信頼関係を築く実践力の向上を図り、少しでも子ども・若者たちの未来が明るくなってほしいと願っています。

愛知県生涯学習推進センター センター長 伊佐治 進

参加者	講 演	1日目	27名、	2日目	21名
	実地研修		19名		
	全体交流会		16名		

講演Ⅰ 「子どもの支援のあり方」

NPO 法人陽和 理事長 渋谷 幸靖 氏

【参加者の声】（一部）

- ・ 今回、実際自立援助ホーム運営の渋谷さんのお話、そして頑張っている中学生の話聞くことができ、本当に良かったです。ご自身の過去をふまえて、寄り添い、受け入れていらっしゃる。子供達の人生に「本当の大人」としてサポートしていらっしゃる素晴らしいと思いました。多くを学ばせていただき、ありがとうございました。
- ・ 子どもの生の声が聞けたのが印象的でした。



講演2 「若者へのアウトリーチ ～『ここがあってよかった』そう思える場所を～」

NPO 法人全国子ども福祉センター 栗本 未来 氏・井田 真桜 氏

【参加者の声】（一部）

- ・ 誰であっても排除しない、全員が輪っかになろうとすることはしない、活動を義務化しないなどの大切にしていることが印象に残っている。
- ・ アウトリーチというものを知ることができてよかった。「支援」はする側の満足感ではなく、受ける側が必要と思えるものを行うことが「支援」になるという基本的なことを理解することができた。



講演3 「アウトリーチと居場所支援の実践と学び」

一般社団法人愛知 PFS 協会 代表理事 星野 智生 氏

【参加者の声】（一部）

- ・ 支援をすると聞くと、話を聞かなければならないというイメージがあったけれど、相手のペースを最優先し、支援者が焦らないようにしなければならないことが印象に残った。話さなくても、態度と雰囲気、相手を受け入れている側にいるという安心感を覚えてもらうことが大切だと学んだ。
- ・ 「栄でチルする？」はとても良いと思いました。若者にとって居場所があることがとても大事であることが分かりました。



講演4 「街角保健室の挑戦 ～ピンクテントの灯は安心安全自由への道しるべ～」

街角保健室☆ケアリングカフェ 代表 中谷 豊実 氏

【参加者の声】（一部）

- ・ 街角保健室の事業がよく分かりました。性教育は正しく伝え、沢山の人に理解してもらえるといいです。ユーチューブの紹介も良かった。
- ・ 先生が明るく元気でわかりやすかったです。ケアリングカフェの必要性がわかりました。先生のおかげで元気が出ました。ありがとうございました。



実地研修

講師の各団体の活動に参加していただきました。複数の団体の活動に参加された方も多くいらっしゃいました。

全体交流会

実地研修参加者による実地研修の感想や今後の活動についてお話しいただき、各団体の講師及び県関係課（あいちの学び推進課）担当職員からもコメントをいただきながら、参加者同士の交流をしました。

【参加者の声】（一部）

- ・ 参加者さん自身やご家族の中にも生きづらさを抱える方がいることを知り、目に見えない悩みを抱える人は多くいることを学んだ。多様な考え方から、自分では言語化できていなかった学びを得ることができた。
- ・ 色んな立場に居る方々が、若者達が生きやすい場所を作るために、活動したいと思っていること、そんな仲間が居ることが嬉しい。
- ・ 様々な視点からの気づきや思いがグループワークで分かって良かった。これからのことについてや実地研修の方との交流、共有ができてとても良かった。



修了証

すべての研修に参加された15名に修了証を授与しました。

【修了書授与者の参加報告】（一部抜粋）

- ・ 人口減少に転じた日本でこれからの未来を担っていくべき子ども世代が少しでも幸せな人生を歩めるよう健全な日本が作れるよう大人の課題がさらに明らかになった。（Y）
- ・ 今回の研修を通じて、アウトリーチによって手を差し伸べ積極的に支援する仕組みがあることを知りました。親の立場と子供の立場、子供の意見を重視してこのような支援が活用されると大切な子供たちの将来が明るくなると思います。（I）